

## 医学と獣医学の対話 ～人類と動物のウェルビーイング～

Rafael Laguens

世界獣医師会会長



スペインのサラゴサ大学を卒業し、ソリア県で大型動物診療医として獣医師のキャリアを開始。11年後、カスティーリャ・イ・レオン州の獣医公衆衛生担当官となり、1990年から2017年まで務める。「農業・食品技術研究所 (IATA-CSIC, スペイン)」の食品技術高等専攻の学位を取得。2003年から2007年までスペイン消費食品安全栄養庁 (AECOSAN) 諮問委員会のメンバーに就任。ペットや馬の登録を管理する複数のインターネット・データベースの設計、助言、管理運営業務に携わった。その他、スペイン保健省の評価委員会、カスティーリャ・イ・レオン保健科学研究所、欧州獣医継続教育イニシアチブ (VetCEE) など、国、欧州レベルで、獣医師の継続的な教育に関連した各種プロジェクトに関与する。2019年から2020年は獣医師ウェブポータルRECOLのウェブマスター及び、獣医公衆衛生ジャーナル「Hygia」のエディターを務めた。スペイン獣医療法定組織 (スペイン獣医師協会) の県、地方、国、国際レベルで様々な役職を歴任。2011年から2017年は世界獣医師会 (WVA) 欧州評議員、2015年から2019年は欧州獣医師連盟 (FVE) 会長、2020年から2022年は世界獣医師会 (WVA) の次期会長を務めた。

現在は、DALPS (Derecho Animal-Animal Legal and Policy Studies) 誌の専門家委員会メンバー、「ソリア獣医師協会 (Colegio Oficial de Veterinarios de Soria)」の会長で、コミュニケーション、教育、技術に関するコンサルタントを行っている。

2022年3月30日に世界獣医師会 (WVA) の会長に就任。

医学と獣医学の歴史を見ると、両者には共通点や並行した類似点があることが分かり、わたしたちが現在をより良く理解し将来に立ち向かう一助となる。有史以前から医学と獣医学には相関性があり、両方を同時に実践していた人たちの心の中には対話があった。このことは、歴史上さまざまな時代を通じて繰り返されてきた。

ルネサンス後期には科学革命が起こり、17世紀後半から18世紀にかけて理性と証拠を重視する啓蒙主義という知的運動が起こった。啓蒙主義を擁護する大学では自然史の分野が教えられ、それは医学と獣医学の両分野における医学の発展に決定的な影響を与えることになる。こうした背景の中、1761年に王立リヨン獣医大学が設立され、これが科学的な獣医学の始まりとなった。獣医学は初めて医学から純粋に分離されたものの、医師と同様の技術は動物の治療にも応用された。最初の獣医大学の誕生である。初期の獣医大学が誕生した時点では、医学大学からの影響と結びつきは明らかであり、かつ必要でもあった。

医学、獣医大学からの最初の卒業生たちが日常的に実務をするようになると、彼らは自分たちと他の職業、たとえば床屋外科医や装蹄師たちとの対立に直面することとなった。こうした相違は徐々に解明されていき、ここに両者の職業の実践と義務論を規制する必要に応じて、医学と獣医学の間には並行関係とそして間違いなく対話があったことを我々は見ることができる。

医学知識の向上への熱望と行政的合理性の要求から、1880年代には専門医制度が出現した。

医学と獣医学が並行して歩んできた道筋は、現在の両専門職の専門分野リストを見れば、コミュニケーションと対話のもう一つの明確な証拠であると言える。

獣医師の能力は、全体として見た健康にとって重要で欠かせないもの、とみなされなければならない。獣医学の応用は、動物の健康とウェルビーイングだけでなく、人類の肉体的、精神的、社会的ウェルビーイングにも貢献する。

獣医師の仕事のこうした側面は社会からは見えないことが多いが、人々とその地域社会の健康を守り改善することは、獣医師という職業にとって重要な部分である。専門教育を受けたすべての獣医師は包括的な医学的訓練を受けており、専門分野にかかわらず、公衆衛生と食の安全・安心を推進する責任を負っている。

獣医学の中核領域には、疾病の診断、サーベイランス、疫学、管理、予防、撲滅、薬剤耐性菌の問題、実験施設や診断研究所の健康面の管理、生物医学研究、健康教育と普及活動、生物学的製剤や医療機器の生産と管理、食品生産、家畜や野生動物の個体群管理、飲料水や環境の保護、公衆衛生上の緊急事態の管理などが含まれる。

ヒト、動物、そして我々皆が共有する地球の健康のために、医学と動物医学の結び付きを強めることが緊急に必要なのである。